

対象校No. 218

注4

学校コード F115210111849

注3

設置年度 令和

3年度

計画の区分： 大学の設置

注1

認可

注2
三条市立大学

工学部

技術・経営工学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

公立大学法人三条市立大学
令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	事務局 General Affairs Unit
職名・氏名	シヨジ ナカムラ 主事・中村 はづき
電話番号	0256-47-5511(内線100)
(夜間)	0256-47-5511(内線100)
e-mail	soumu@sanjo-u.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

工学部

＜技術・経営工学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	19
4. 既設大学等の状況	20
5. 教員組織の状況	21
6. 附帯事項等に対する履行状況等	34
7. その他全般的事項	36

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

公立大学法人三条市立大学

(2) 大 学 名

三条市立大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒955-0091

新潟県三条市上須頃5002番地 5

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を () 書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(アハメド シャハリアル) アハメド シャハリアル (令和3年4月)		
学 長	(アハメド シャハリアル) アハメド シャハリアル (令和3年4月)		
学 部 長	(シマダ テツオ) 島田 哲雄 (令和3年4月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を () 書きで記入してください。
(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)
令和6年度に報告する内容 → (6)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
工学部 技術・経営工学科 学士(工学)	工学関係	4年	80人	2年次0人 3年次0人 4年次0人	320人	—	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「—」を選択。)

(5) ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分につい て	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	80 () []	人 () []	80 () []	人 () []	80 () []	人 () []	80 () []	人 () []	—	1.04倍	—	
志願者数	— () []	— () []	— () []	— () []	815 () []	人 () []	401 () []	人 () []	736 () []	人 () []	459 () []	人 () []				
受験者数	— () []	— () []	— () []	— () []	528 () []	人 () []	240 () []	人 () []	445 () []	人 () []	291 () []	人 () []				
合格者数	— () []	— () []	— () []	— () []	141 () []	人 () []	113 () []	人 () []	118 () []	人 () []	126 () []	人 () []				
B 入学者数	— () []	— () []	— () []	— () []	82 () []	人 () []	82 () []	人 () []	86 () []	人 () []	93 () []	人 () []				
入学定員超過率 B/A	—		—		1.02		1.02		1.07		1.16					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「—」を記入してください。
 ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。
 (春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「—」を選択。)
 ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
 ・ 「(5) ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	82 [—] (—)	— [—] (—)	82 [—] (—)	— [—] (—)	86 [—] (—)	— [—] (—)	93 [—] (—)	— [—] (—)	
2 年次			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	81 [—] (—)	— [—] (—)	80 [—] (—)	— [—] (—)	86 [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次					— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	76 [—] (—)	— [—] (—)	79 [—] (—)	— [—] (—)	
4 年次							— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	75 [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)		— [—] (—)		82 [—] (—)		163 [—] (—)		242 [—] (—)		333 [—] (—)		

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ [—]内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ (—)内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
- また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	人	人	令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	82 人	1 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	1 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(1人)
令和4年度	163 人	7 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	5 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(4人)、除籍(1人)
			令和4年度	2 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(1人)、就学意欲の低下(1人)
令和5年度	242 人	2 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	1 人	0 人	進路変更(1人)
			令和4年度	1 人	0 人	進路変更(1人)
			令和5年度	0 人	0 人	
令和6年度	333 人	0 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
合 計		10 人		10 人	0 人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{82} = \boxed{1.21} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{7}{163} = \boxed{4.29} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{242} = \boxed{0.82} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{333} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜工学部 技術・経営工学科＞

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
語 学 科 目	基礎英語	1前		1		1					兼1 兼1
	英語Ⅰ	1前	1			1					
	英語Ⅱ	1後	1			1					
	英語Ⅲ	2前	1								
	英語Ⅳ	2後	1			1					
	専門英語Ⅰ	3前		1		1					
	専門英語Ⅱ	4前		1		1					
	小計(7科目)	—	4	3	0	1	0	0	0	0	
人 文 社 会 科 目	経済学	1前		2							兼1
	社会調査学	1前		2							兼1
	古典に親しむ	1前		2							兼1
	歴史学	1前		2							兼1
	文化人類学	1後		2							兼1
	企業法務	3前		2							兼1
	小計(6科目)	—	0	12	0	0	0	0	0	0	兼6
理 工 科 目	ユニバーサルデザイン	1前		2							兼1
	工業と環境	1後		2							兼1
	基礎有機化学	2前		2		1					
	基礎無機化学	2前		2			1				
	エネルギーの科学	2前		2		1					
	小計(5科目)	—	0	10	0	2	1	0	0	0	兼2
人 間 形 成 科 目	スポーツⅠ(バスケットボール)	1前		1							兼1
	スポーツⅡ(バドミントン)	1後		1							兼1
	心理学	2後		1							兼1
	キャリアデザイン	2後		1							兼1
	小計(4科目)	—	0	4	0	0	0	0	0	0	兼3
基 礎 数 理 科 目	基礎数学演習	1前		1							兼2
	解析学Ⅰ	1前	2			1					兼1
	解析学Ⅱ	1後	2								兼1
	線形代数	1前	2								兼1
	確率統計基礎	1後	2								兼1
	基礎物理学	1前	2			1					
	基礎物理学演習	1前		1					1		
	基礎化学	1前	2				1				
	基礎化学演習	1前		1			1				
	基礎科学実験	1後	2			2	2		1		
	小計(10科目)	—	14	3	0	2	2	0	1	0	兼3
総 合 科 目	燕三条リテラシ	1前	1			2	1		1		兼1
	プロジェクト演習Ⅰ	1前	1			1	2	1			
	プロジェクト演習Ⅱ	1後	1			1	2	1			
	プロジェクト演習Ⅲ	2前	1			4	2	1	1		
	プロジェクト演習Ⅳ	2後	1			4	2	1	1		
	技術者倫理	2前	2			2					
	産学連携実習Ⅰ	2後	3			15	5	1	2		
	産学連携実習Ⅱ	3後	8			15	5	1	2		
	プロトタイピング演習	3前	1			3			1		
	商品企画プロジェクト演習	4前	1			2		1			
	卒業研究Ⅰ	4前	4			15	5	1	2		
	卒業研究Ⅱ	4後	4			15	5	1	2		
	小計(12科目)	—	28	0	0	15	5	1	2	0	兼1

【令和6年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
語 学 科 目	基礎英語	1前		1		1					兼1
	英語Ⅰ	1前	1			1					兼2
	英語Ⅱ	1後	1			1					兼1
	英語Ⅲ	2前	1								兼1
	英語Ⅳ	2後	1								兼2
	専門英語Ⅰ	3前		1		1					兼1
	専門英語Ⅱ	4前		1		1					兼1
	小計(7科目)	—	4	3	0	1	0	0	0	0	兼3
人 文 社 会 科 目	経済学	1前		2							兼1
	社会調査学	1前		2							兼1
	古典に親しむ	1前		2							兼1
	歴史学	1前		2							兼1
	文化人類学	1後		2							兼1
	企業法務	3前		2							兼1
	小計(6科目)	—	0	12	0	0	0	0	0	0	兼6
理 工 科 目	ユニバーサルデザイン	1前		2							兼1
	工業と環境	1後		2							兼1
	基礎有機化学	2前		2		1					
	基礎無機化学	2前		2			1				
	エネルギーの科学	2前		2		1					
	小計(5科目)	—	0	10	0	2	1	0	0	0	兼2
人 間 形 成 科 目	スポーツⅠ(バドミントン)	1前		1							兼1
	スポーツⅡ(バスケットボール)	1後		1							兼1
	心理学	2後		1							兼1
	キャリアデザイン	2後		1							兼1
	小計(4科目)	—	0	4	0	0	0	0	0	0	兼3
基 礎 数 理 科 目	基礎数学演習	1前		1							兼1
	解析学Ⅰ	1前	2								兼1
	解析学Ⅱ	1後	2								兼1
	線形代数	1前	2								兼1
	確率統計基礎	1後	2								兼1
	基礎物理学	1前	2			1			1		
	基礎物理学演習	1前		1					1		
	基礎化学	1前	2				1				
	基礎化学演習	1前		1			1				
	基礎科学実験	1後	2			3	2		1		
	小計(10科目)	—	14	3	0	3	2	0	1	0	兼3
総 合 科 目	燕三条リテラシ	1前	1			3	1		1		兼1
	プロジェクト演習Ⅰ	1前	1			2	1	1			兼1
	プロジェクト演習Ⅱ	1後	1			1	1	1			兼1
	プロジェクト演習Ⅲ	2前	1			3	1	1	1		兼1
	プロジェクト演習Ⅳ	2後	1			2	1	1	1		兼1
	技術者倫理	2前	2			2					
	産学連携実習Ⅰ	2後	3			15	3	1	2		
	産学連携実習Ⅱ	3後	8			15	3	1	2		
	プロトタイピング演習	3前	1			3			1		
	商品企画プロジェクト演習	4前	1			2		1			
	卒業研究Ⅰ	4前	4			14	3	1	2		
	卒業研究Ⅱ	4後	4			14	3	1	2		
	小計(12科目)	—	28	0	0	16	3	0	2	0	兼4

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎工学科目	材料工学概論	1前	2			1					
	加工工学概論	1前	2			1					
	機構・製図基礎	1前		1		1					
	工業数学Ⅰ	2前		2		1					
	工業数学Ⅱ	2後		1		1					
	力学	1後	2			1					
	力学・電気工学演習	1後		1		2					
	材料力学	1後	2			1					
	材料工学	1後	2			1					
	プログラミング演習基礎	1後	1				1		1		
	電気工学	1後	2			1					
	設計製図演習Ⅰ	1後	1			1					
	設計製図演習Ⅱ	2前	1			1					
	熱力学	2前	2								兼1
	水力学	2後	2			1					
	機械力学	2前	2			1					
応用工学科目	機械工作実習	2前	2			1	1				
	工学実験	3前	2			8	2		2		
	小計(18科目)	一	25	5	0	10	3	0	2	0	兼1
	電気磁気学	2前		2		1					
	電子工学	2前		2		1					
	機械要素工学	2前		2		1					
	実用材料工学	2後		2		1					
	特殊加工法	2前		2		1					
	計測工学	2後		2			1				
	メカトロニクス演習	2後		1		1			1		
	機械加工学	3前		2		1					
	IoTセンサ工学	3前		2		1					
	機器分析学基礎	3前		2		1			1		
	高分子材料工学	3前		2		1					
	加工シミュレーション	3前		2		1					
	伝熱工学	3前		2							兼1
発展技術科目	応用材料力学	3前		2		1					
	流体力学	3前		2		1					
	トライボロジー概論	3前		2		1					
	小計(16科目)	一	0	31	0	9	2	0	1	0	兼1
	CAE工学	3前		2		1					兼1
	ソフトマター力学概論	3前		2							
	塑性加工技術論	3前		2		1					
	表面加工技術論	3前		2			1				
	金型産業技術論	3前		2							兼4
	プラスチック産業技術論	3前		2							兼1
	刃物製造技術論	3前		2							兼1
	安全管理技術論	3前		2		1					
	複合材料工学	3前		2			1				
	実用プログラミング演習	3前		1		1					
	機械学習技術論	3前		2		1					
	医療機器工学	3前		2			1				
	小計(12科目)	一	0	23	0	4	3	0	0	0	兼7

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎工学科目	材料工学概論	1前	2			1					
	加工工学概論	1前	2			1					
	機構・製図基礎	1前		1		1					
	工業数学Ⅰ	2前		2		1					兼1
	工業数学Ⅱ	2後		1		1					兼1
	力学	1後	2			1					
	力学・電気工学演習	1後		1		2					
	材料力学	1後	2			1					
	材料工学	1後	2			1					
	プログラミング演習基礎	1後	1			1	1		1		
	電気工学	1後	2			1					
	設計製図演習Ⅰ	1後	1			1					兼3
	設計製図演習Ⅱ	2前	1			1					兼3
	熱力学	2前	2								兼1
	水力学	2後	2			1			1		
	機械力学	2前	2			1					
応用工学科目	機械工作実習	2前	2			2	1				
	工学実験	3前	2			8	2		2		
	小計(18科目)	一	25	5	0	11	2	0	2	0	兼5
	電気磁気学	2前		2		1					
	電子工学	2前		2		1					
	機械要素工学	2前		2		1					兼1
	実用材料工学	2後		2		1					
	特殊加工法	2前		2		1					
	計測工学	2後		2			1		1		
	メカトロニクス演習	2後		1		1			1		
	機械加工学	3前		2		1					
	IoTセンサ工学	3前		2		1					
	機器分析学基礎	3前		2		1	1		1		
	高分子材料工学	3前		2		1					
	加工シミュレーション	3前		2		1					兼1
	伝熱工学	3前		2							兼1
発展技術科目	応用材料力学	3前		2		1					
	流体力学	3前		2		1			1		
	トライボロジー概論	3前		2		1					
	小計(16科目)	一	0	31	0	8	1	0	2	0	兼3
	CAE工学	3前		2		1					
	ソフトマター力学概論	3前		2							兼1
	塑性加工技術論	3前		2		1					
	表面加工技術論	3前		2			1				
	金型産業技術論	3前		2							兼4
	プラスチック産業技術論	3前		2							兼1
	刃物製造技術論	3前		2							兼1
	安全管理技術論	3前		2		1					
	複合材料工学	3前		2			1				
	実用プログラミング演習	3前		1		1					
	機械学習技術論	3前		2		1					
	医療機器工学	3前		2		1	1				兼1
	小計(12科目)	一	0	23	0	5	2	0	0	0	兼8

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
経営系科目	経営学基礎	1前	2				1				兼1
	経営組織論	2前		2			1				
	簿記会計入門	2前		2							兼1
	経営戦略論	2前		2							兼1
	企業会計	2後		2		1					
	マーケティング論	2後		2				1			兼1
	人的資源管理論	3前		2							
	データとビジネス	3前		2		1					兼3
	アントレプレナーシップ	4前		2			1				
	小計(9科目)	—	2	16	0	2	1	1	0	0	
技術マネジメント科目	技術マネジメント論	1後	2			1					兼1
	知的財産戦略	2前		2							
	生産管理論	2後	2			1					兼1
	品質管理論	3前	2			1					
	イノベーションエコシステム論	3前		2							兼2
	製品開発プロセス	3前		2		1					
	ものづくり戦略QCDF	4前		2		1					兼2
	R&Dマネジメント	4前		2		1					
	技術インシデント／危機管理	3前		2		1					兼28
	小計(9科目)	—	6	12	0	4	0	0	0	0	
合計(108科目)		—	79	119	0	15	5	1	2	0	
卒業要件及び履修方法											
(1) 卒業所要単位数は129単位とする。 (2) 必修科目79単位を全て修得すること。 (a) 語学科目4単位 (b) 基礎数理科目14単位 (c) 総合科目28単位 (d) 基礎工学科目25単位 (e) 経営系科目2単位 (f) 技術マネジメント科目6単位 (3) 選択科目は、以下の条件を満たし、50単位以上修得すること。 (a) 教養科目において、人文社会科目から4単位以上、理工科目から4単位以上、人間形成科目から2単位以上を修得し、基礎数理科目、語学科目を含めた5分野での選択科目の合計修得単位数が13単位以上であること。 (b) 専門科目において、応用工学科目から12単位以上、発展技術科目から6単位以上、経営系科目から2単位以上、技術マネジメント科目から4単位以上を修得し、基礎工学科目を含めた5分野での選択科目の合計修得単位数が37単位以上であること。											

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
経営系科目	経営学基礎	1前	2				1				兼1
	経営組織論	2前	2				1				兼1
	簿記会計入門	2前	2								兼1
	経営戦略論	2前	2								兼1
	企業会計	2後	2		1						兼1
	マーケティング論	2後	2				1				
	人的資源管理論	3前	2								兼1
	データとビジネス	3前	2		1						兼1
	アントレプレナーシップ	4前	2			1					
	ロジスティクス論	3後	1								兼1
小計(10科目)	—	2	17	0	2	0	0	0	0	兼8	
技術マネジメント科目	技術マネジメント論	1後	2			1					兼1
	知的財産戦略	2前	2								
	生産管理論	2後	2			1					兼1
	品質管理論	3前	2			1					
	イノベーションエコシステム論	3前	2								兼1
	製品開発プロセス	3前	2		1						兼2
	ものづくり戦略QCDF	4前	2		1						
	R&Dマネジメント	4前	2		1						兼2
	技術インシデント／危機管理	3前	2		1						
	小計(9科目)	—	6	12	0	4	0	0	0	0	兼2
合計(109科目)	—	79	120	0	15	3	0	2	0	兼42	
卒業要件及び履修方法											
<p>(1) 卒業所要単位数は129単位とする。</p> <p>(2) 必修科目79単位を全て修得すること。</p> <p>(a) 語学科目4単位</p> <p>(b) 基礎数理科目14単位</p> <p>(c) 総合科目28単位</p> <p>(d) 基礎工学科目25単位</p> <p>(e) 経営系科目2単位</p> <p>(f) 技術マネジメント科目6単位</p> <p>(3) 選択科目は、以下の条件を満たし、50単位以上修得すること。</p> <p>(a) 教養科目において、人文社会科目から4単位以上、理工科目から4単位以上、人間形成科目から2単位以上を修得し、基礎数理科目、語学科目を含めた5分野での選択科目の合計修得単位数が13単位以上であること。</p> <p>(b) 専門科目において、応用工学科目から12単位以上、発展技術科目から6単位以上、経営系科目から2単位以上、技術マネジメント科目から4単位以上を修得し、基礎工学科目を含めた5分野での選択科目の合計修得単位数が37単位以上であること。</p>											

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
語学科目	基礎英語	1前		1		1					兼1 兼1
	英語Ⅰ	1前	1			1					
	英語Ⅱ	1後	1			1					
	英語Ⅲ	2前	1								
	英語Ⅳ	2後	1			1					
	専門英語Ⅰ	3前		1		1					
	専門英語Ⅱ	4前		1		1					
	小計(7科目)	－	4	3	0	1	0	0	0	0	
人文社会科目	経済学	1前		2							兼1
	社会調査学	1前		2							兼1
	古典に親しむ	1前		2							兼1
	歴史学	1前		2							兼1
	文化人類学	1後		2							兼1
	企業法務	3前		2							兼1
	小計(6科目)	－	0	12	0	0	0	0	0	0	兼6
理工科目	ユニバーサルデザイン	1前		2							兼1
	工業と環境	1後		2							兼1
	基礎有機化学	2前		2		1					
	基礎無機化学	2前		2			1				
	エネルギーの科学	2前		2		1					
	小計(5科目)	－	0	10	0	2	1	0	0	0	兼2
人間形成科目	スポーツⅠ(ハンドボール)	1前		1							兼1
	スポーツⅡ(バスケットボール)	1後		1							兼1
	心理学	2後		1							兼1
	キャリアデザイン	2後		1							兼1
	小計(4科目)	－	0	4	0	0	0	0	0	0	兼3
基礎数理科目	基礎数学演習	1前		1							兼2
	解析学Ⅰ	1前		2		1					兼1
	解析学Ⅱ	1後		2							兼1
	線形代数	1前		2							兼1
	確率統計基礎	1後		2							兼1
	基礎物理学	1前		2		1			1		
	基礎物理学演習	1前		1		1			1		
	基礎化学	1前		2			1				
	基礎化学演習	1前		1			1				
	基礎科学実験	1後		2		2	2		1		
	小計(10科目)	－	14	3	0	2	2	0	1	0	兼3
総合科目	燕三条リテラシ	1前	1			2	1		1		兼1
	プロジェクト演習Ⅰ	1前	1			2	1	1			兼1
	プロジェクト演習Ⅱ	1後	1			2	1	1			兼1
	プロジェクト演習Ⅲ	2前	1			5	1	1	1		兼1
	プロジェクト演習Ⅳ	2後	1			4	1	1	1		
	技術者倫理	2前	2			2					
	産学連携実習Ⅰ	2後	3			16	3	1	2		
	産学連携実習Ⅱ	3後	8			16	3	1	2		
	プロトタイピング演習	3前	1			3			1		
	商品企画プロジェクト演習	4前	1			2		1			
	卒業研究Ⅰ	4前	4			16	3	1	2		
	卒業研究Ⅱ	4後	4			16	3	1	2		
	小計(12科目)	－	28	0	0	16	3	0	2	0	兼3

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
語学科目	基礎英語	1前		1		1					兼1 兼1
	英語Ⅰ	1前	1			1					
	英語Ⅱ	1後	1			1					
	英語Ⅲ	2前	1								
	英語Ⅳ	2後	1			1					
	専門英語Ⅰ	3前		1		1					
	専門英語Ⅱ	4前		1		1					
	小計(7科目)	－	4	3	0	1	0	0	0	0	
人文社会科目	経済学	1前		2							兼1
	社会調査学	1前		2							兼1
	古典に親しむ	1後		2							兼1
	歴史学	1前		2							兼1
	文化人類学	1後		2							兼1
	企業法務	3前		2							兼1
	小計(6科目)	－	0	12	0	0	0	0	0	0	兼6
理工科目	ユニバーサルデザイン	1前		2							兼1
	工業と環境	1後		2							兼1
	基礎有機化学	2前		2		1					
	基礎無機化学	2前		2			1				
	エネルギーの科学	2前		2		1					
	小計(5科目)	－	0	10	0	2	1	0	0	0	兼2
人間形成科目	スポーツⅠ(ハンドボール)	1前		1							兼1
	スポーツⅡ(バスケットボール)	1後		1							兼1
	心理学	2後		1							兼1
	キャリアデザイン	2後		1							兼1
	小計(4科目)	－	0	4	0	0	0	0	0	0	兼3
基礎数理科目	基礎数学演習	1前		1							兼2
	解析学Ⅰ	1前		2		1					兼1
	解析学Ⅱ	1後		2							兼1
	線形代数	1前		2							兼1
	確率統計基礎	1後		2							兼1
	基礎物理学	1前		2		1					
	基礎物理学演習	1前		1					1		
	基礎化学	1前		2			2				
	基礎化学演習	1前		1			1				
	基礎科学実験	1後		2		2	2		1		
	小計(10科目)	－	14	3	0	2	2	0	1	0	兼3
総合科目	燕三条リテラシ	1前	1			2	1		1		兼1
	プロジェクト演習Ⅰ	1前	1			2	1	1			兼1
	プロジェクト演習Ⅱ	1後	1			2	1	1			兼1
	プロジェクト演習Ⅲ	2前	1			5	1	1	1		兼1
	プロジェクト演習Ⅳ	2後	1			4	1	1	1		
	技術者倫理	2前	2			2					
	産学連携実習Ⅰ	2後	3			16	4	1	2		
	産学連携実習Ⅱ	3後	8			16	4	1	2		
	プロトタイピング演習	3前	1			3			1		
	商品企画プロジェクト演習	4前	1			2		1			
	卒業研究Ⅰ	4前	4			16	4	1	2		
	卒業研究Ⅱ	4後	4			16	4	1	2		
	小計(12科目)	－	28	0	0	16	4	0	2	0	兼3

【令和5年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 工 学 科 目	材料工学概論	1前	2			1						兼1 兼3 兼1
	加工学概論	1前	2			1						
	機構・製図基礎	1前		1		1						
	工業数学Ⅰ	2前		2		1						
	工業数学Ⅱ	2後		1		1						
	力学	1後	2			1						
	力学・電気工学演習	1後		1		2						
	材料力学	1後	2			1						
	材料工学	1後	2			1						
	プログラミング演習基礎	1後	1			1	1		1			
	電気工学	1後	2			1						
	設計製図演習Ⅰ	1後	1			1						
	設計製図演習Ⅱ	2前	1			1						
	熱力学	2前	2						1			
	水力学	2後	2			1						
応用 工 学 科 目	機械力学	2前	2			1						
	機械工作実習	2前	2			2	1					
	工学実験	3前	2			9	2		2			
	小計(18科目)	一	25	5	0	12	2	0	2	0	兼4	
	電気磁気学	2前		2		1						
	電子工学	2前		2		1						
	機械要素工学	2前		2		1					兼1	
	実用材料工学	2後		2		1						
	特殊加工法	2前		2		1						
	計測工学	2後		2			1		1			
	メカトロニクス演習	2後		1		1			1			
	機械加工学	3前		2		1						
	IoTセンサ工学	3前		2		1						
	機器分析学基礎	3前		2		1	1		1			
	発展 技 術 科 目	高分子材料工学	3前		2		1					
加工シミュレーション		3前		2		1					兼1	
伝熱工学		3前		2							兼1	
応用材料力学		3前		2		1						
流体力学		3前		2		1			1			
トライボロジー概論		3前		2		1						
小計(16科目)		一	0	31	0	8	1	0	2	0	兼3	
CAE工学		3前		2		1						
ソフトマター力学概論		3前		2							兼1	
塑性加工技術論		3前		2		1						
表面加工技術論		3前		2			1					
金型産業技術論		3前		2							兼4	
プラスチック産業技術論		3前		2							兼1	
刃物製造技術論		3前		2							兼1	
安全管理技術論		3前		2		1						
複合材料工学	3前		2			1						
実用プログラミング演習	3前		1		1							
機械学習技術論	3前		2		1							
医療機器工学	3前		2		1	1				兼1		
小計(12科目)	一	0	23	0	5	2	0	0	0	兼8		

【令和4年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎工 学 科 目	材料工学概論	1前	2			1						
	加工学概論	1前	2			1						
	機構・製図基礎	1前		1		1						
	工業数学Ⅰ	2前		2		1						
	工業数学Ⅱ	2後		1		1						
	力学	1後	2			1						
	力学・電気工学演習	1後		1		2						
	材料力学	1後	2			1						
	材料工学	1後	2			1						
	プログラミング演習基礎	1後	1			1	1		1			
	電気工学	1後	2			1						
	設計製図演習Ⅰ	1後	1			1						兼1
	設計製図演習Ⅱ	2前	1			1						兼3
	熱力学	2前	2									兼1
	水力学	2後	2			1			1			
	機械力学	2前	2			1						
機械工作実習	2前	2			2	1						
工学実験	3前	2			9	2		2				
小計(18科目)	—	25	5	0	12	2	0	2	0		兼4	
応用工 学 科 目	電気磁気学	2前		2		1						
	電子工学	2前		2		1						
	機械要素工学	2前		2		1						兼1
	実用材料工学	2後		2		1						
	特殊加工法	2前		2		1						
	計測工学	2後		2			1		1			
	メカトロニクス演習	2後		1		1			1			
	機械加工学	3前		2		1						
	IoTセンサ工学	3前		2		1						
	機器分析学基礎	3前		2		1	1		1			
	高分子材料工学	3前		2		1						
	加工シミュレーション	3前		2		1						兼1
	伝熱工学	3前		2								兼1
	応用材料力学	3前		2		1						
	流体力学	3前		2		1			1			
	トライボロジー概論	3前		2		1						
小計(16科目)	—	0	31	0	8	1	0	2	0		兼3	
発展技 術 科 目	CAE工学	3前		2		1						
	ソフトマターカ学概論	3前		2								兼1
	塑性加工技術論	3前		2		1						
	表面加工技術論	3前		2			1					
	金型産業技術論	3前		2								兼4
	プラスチック産業技術論	3前		2								兼1
	刃物製造技術論	3前		2								兼1
	安全管理技術論	3前		2		1						
	複合材料工学	3前		2			1					
	実用プログラミング演習	3前		1		1						
	機械学習技術論	3前		2		1						
	医療機器工学	3前		2		1	1					兼1
	小計(12科目)	—	0	23	0	5	2	0	0	0		兼8

【令和5年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
経営系科目	経営学基礎	1前	2				1				兼1
	経営組織論	2前		2			1				兼1
	簿記会計入門	2前		2							兼1
	経営戦略論	2前		2							兼1
	企業会計	2後		2		1					
	マーケティング論	2後		2				1			兼1
	人的資源管理論	3前		2							兼1
	データとビジネス	3前		2		1					
	アントレプレナーシップ	4前		2			1				
	ロジスティクス論	3後		1							兼1
小計(10科目)	—	2	17	0	2	0	0	0	0	兼7	
技術マネジメント科目	技術マネジメント論	1後	2			1					
	知的財産戦略	2前		2							兼1
	生産管理論	2後	2			1					
	品質管理論	3前	2			1					
	イノベーションエコシステム論	3前		2							兼1
	製品開発プロセス	3前		2		1					
	ものづくり戦略QCDF	4前		2		1					
	R&Dマネジメント	4前		2		1					
	技術インシデント／危機管理	3前		2		1					
	小計(9科目)	—	6	12	0	4	0	0	0	0	兼2
合計(109科目)		—	79	120	0	16	3	0	2	0	兼38
卒業要件及び履修方法											
(1) 卒業所要単位数は129単位とする。 (2) 必修科目79単位を全て修得すること。 (a) 語学科目4単位 (b) 基礎数理科目14単位 (c) 総合科目28単位 (d) 基礎工学科目25単位 (e) 経営系科目2単位 (f) 技術マネジメント科目6単位 (3) 選択科目は、以下の条件を満たし、50単位以上修得すること。 (a) 教養科目において、人文社会科目から4単位以上、理工科目から4単位以上、人間形成科目から2単位以上を修得し、基礎数理科目、語学科目を含めた5分野での選択科目の合計修得単位数が13単位以上であること。 (b) 専門科目において、応用工学科目から12単位以上、発展技術科目から6単位以上、経営系科目から2単位以上、技術マネジメント科目から4単位以上を修得し、基礎工学科目を含めた5分野での選択科目の合計修得単位数が37単位以上であること。											

【令和4年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
経営系科目	経営学基礎	1前	2				1					兼1
	経営組織論	2前		2			1					兼1
	簿記会計入門	2前		2								兼1
	経営戦略論	2前		2								兼1
	企業会計	2後		2		1						
	マーケティング論	2後		2				1				兼1
	人的資源管理論	3前		2								兼1
	データとビジネス	3前		2		1						
	アントレプレナーシップ	4前		2			1					
	ロジスティクス論	3後		1								兼1
小計(10科目)		—	2	17	0	2	0	0	0	0	兼7	
技術マネジメント科目	技術マネジメント論	1後	2			1						
	知的財産戦略	2前		2								兼1
	生産管理論	2後	2			1						
	品質管理論	3前	2			1						
	イノベーションエコシステム論	3前		2								兼1
	製品開発プロセス	3前		2		1						
	ものづくり戦略QCDF	4前		2		1						
	R&Dマネジメント	4前		2		1						
	技術インシデント／危機管理	3前		2		1						
	小計(9科目)		—	6	12	0	4	0	0	0	0	兼2
合計(109科目)		—	79	120	0	16	3	0	2	0	兼38	
卒業要件及び履修方法												
<p>(1) 卒業所要単位数は129単位とする。</p> <p>(2) 必修科目79単位を全て修得すること。</p> <p>(a) 語学科目4単位</p> <p>(b) 基礎数理科目14単位</p> <p>(c) 総合科目28単位</p> <p>(d) 基礎工学科目25単位</p> <p>(e) 経営系科目2単位</p> <p>(f) 技術マネジメント科目6単位</p> <p>(3) 選択科目は、以下の条件を満たし、50単位以上修得すること。</p> <p>(a) 教養科目において、人文社会科目から4単位以上、理工科目から4単位以上、人間形成科目から2単位以上を修得し、基礎数理科目、語学科目を含めた5分野での選択科目の合計修得単位数が13単位以上であること。</p> <p>(b) 専門科目において、応用工学科目から12単位以上、発展技術科目から6単位以上、経営系科目から2単位以上、技術マネジメント科目から4単位以上を修得し、基礎工学科目を含めた5分野での選択科目の合計修得単位数が37単位以上であること。</p>												

【令和3年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
語 学 科 目	基礎英語	1前		1		1					
	英語Ⅰ	1前	1			1					
	英語Ⅱ	1後	1			1					
	英語Ⅲ	2前	1								兼1
	英語Ⅳ	2後	1			1					兼1
	専門英語Ⅰ	3前		1		1					
	専門英語Ⅱ	4前		1		1					
	小計(7科目)	—	4	3	0	1	0	0	0	0	兼1
人 文 社 会 科 目	経済学	1前		2							兼1
	社会調査学	1前		2							兼1
	古典に親しむ	1前		2							兼2
	歴史学	1前		2							兼1
	文化人類学	1後		2							兼1
	企業法務	3前		2							兼1
	小計(6科目)	—	0	12	0	0	0	0	0	0	兼7
理 工 科 目	ユニバーサルデザイン	1前		2							兼1
	工業と環境	1後		2							兼1
	基礎有機化学	2前		2		1					
	基礎無機化学	2前		2			1				
	エネルギーの科学	2前		2		1					
	小計(5科目)	—	0	10	0	2	1	0	0	0	兼2
人 間 形 成 科 目	スポーツⅠ(バスケットボール)	1前		1							兼1
	スポーツⅡ(バドミントン)	1後		1							兼1
	心理学	2後		1							兼1
	キャリアデザイン	2後		1							兼1
	小計(4科目)	—	0	4	0	0	0	0	0	0	兼3
基 礎 数 理 科 目	基礎数学演習	1前		1							兼2
	解析学Ⅰ	1前	2			1					兼1
	解析学Ⅱ	1後	2								兼1
	線形代数	1前	2								兼1
	確率統計基礎	1後	2								兼1
	基礎物理学	1前	2			1					
	基礎物理学演習	1前		1					1		
	基礎化学	1前	2				1				
	基礎化学演習	1前		1			1				
	基礎科学実験	1後	2			2	2		1		
	小計(10科目)	—	14	3	0	2	2	0	1	0	兼3
総 合 科 目	燕三条リテラシ	1前	1			2	1		1		兼1
	プロジェクト演習Ⅰ	1前	1			1	2	1			
	プロジェクト演習Ⅱ	1後	1			1	2	1			
	プロジェクト演習Ⅲ	2前	1			4	2	1	1		
	プロジェクト演習Ⅳ	2後	1			4	2	1	1		
	技術者倫理	2前	2			2					
	産学連携実習Ⅰ	2後	3			15	5	1	2		
	産学連携実習Ⅱ	3後	8			15	5	1	2		
	プロトタイピング演習	3前	1			3			1		
	商品企画プロジェクト演習	4前	1			2		1			
	卒業研究Ⅰ	4前	4			15	5	1	2		
	卒業研究Ⅱ	4後	4			15	5	1	2		
	小計(12科目)	—	28	0	0	15	5	1	2	0	兼1

【令和3年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基礎工 学 科 目	材料工学概論	1前	2			1					
	加工学概論	1前	2			1					
	機構・製図基礎	1前		1		1					
	工業数学Ⅰ	2前		2		1					
	工業数学Ⅱ	2後		1		1					
	力学	1後		2		1					
	力学・電気工学演習	1後		1		2					
	材料力学	1後		2		1					
	材料工学	1後		2		1					
	プログラミング演習基礎	1後		1			1		1		
	電気工学	1後		2		1					
	設計製図演習Ⅰ	1後		1		1					
	設計製図演習Ⅱ	2前		1		1					
	熱力学	2前		2							兼1
	水力学	2後		2		1					
	機械力学	2前		2		1					
	機械工作実習	2前		2		1	1				
	工学実験	3前		2		8	2		2		
	小計(18科目)	一	25	5	0	10	3	0	2	0	兼1
応用工 学 科 目	電気磁気学	2前		2		1					
	電子工学	2前		2		1					
	機械要素工学	2前		2		1					
	実用材料工学	2後		2		1					
	特殊加工法	2前		2		1					
	計測工学	2後		2			1				
	メカトロニクス演習	2後		1		1			1		
	機械加工学	3前		2		1					
	IoTセンサ工学	3前		2		1					
	機器分析学基礎	3前		2		1			1		
	高分子材料工学	3前		2		1					
	加工シミュレーション	3前		2		1					
	伝熱工学	3前		2							兼1
	応用材料力学	3前		2		1					
	流体力学	3前		2		1					
	トライボロジー概論	3前		2		1					
	小計(16科目)	一	0	31	0	9	2	0	1	0	兼1
発 展 技 術 科 目	CAE工学	3前		2		1					兼1
	ソフトウェア工学概論	3前		2							
	塑性加工技術論	3前		2		1					
	表面加工技術論	3前		2			1				
	金型産業技術論	3前		2							兼4
	プラスチック産業技術論	3前		2							兼1
	刃物製造技術論	3前		2							兼1
	安全管理技術論	3前		2		1					
	複合材料工学	3前		2			1				
	実用プログラミング演習	3前		1		1					
	機械学習技術論	3前		2		1					
	医療機器工学	3前		2			1				
	小計(12科目)	一	0	23	0	4	3	0	0	0	兼7

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
経営系科目	経営学基礎	1前	2				1				
	経営組織論	2前		2			1				
	簿記会計入門	2前		2							兼1
	経営戦略論	2前		2							兼1
	企業会計	2後		2		1					
	マーケティング論	2後		2				1			
	人的資源管理論	3前		2							兼1
	データとビジネス	3前		2		1					
	アントレプレナーシップ	4前		2			1				
	小計(9科目)	—	2	16	0	2	1	1	0	0	兼3
技術マネジメント科目	技術マネジメント論	1後	2			1					
	知的財産戦略	2前		2							兼1
	生産管理論	2後	2			1					
	品質管理論	3前	2			1					
	イノベーションエコシステム論	3前		2							兼1
	製品開発プロセス	3前		2		1					
	ものづくり戦略QCDF	4前		2		1					
	R&Dマネジメント	4前		2		1					
	技術インシデント／危機管理	3前		2		1					
	小計(9科目)	—	6	12	0	4	0	0	0	0	兼2
合計(108科目)		—	79	119	0	15	5	1	2	0	兼29
卒業要件及び履修方法											
<p>(1) 卒業所要単位数は129単位とする。</p> <p>(2) 必修科目79単位を全て修得すること。</p> <p>(a) 語学科目4単位</p> <p>(b) 基礎数理科目14単位</p> <p>(c) 総合科目28単位</p> <p>(d) 基礎工学科目25単位</p> <p>(e) 経営系科目2単位</p> <p>(f) 技術マネジメント科目6単位</p> <p>(3) 選択科目は、以下の条件を満たし、50単位以上修得すること。</p> <p>(a) 教養科目において、人文社会科目から4単位以上、理工科目から4単位以上、人間形成科目から2単位以上を修得し、基礎数理科目、語学科目を含めた5分野での選択科目の合計修得単位数が13単位以上であること。</p> <p>(b) 専門科目において、応用工学科目から12単位以上、発展技術科目から6単位以上、経営系科目から2単位以上、技術マネジメント科目から4単位以上を修得し、基礎工学科目を含めた5分野での選択科目の合計修得単位数が37単位以上であること。</p>											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
- (例: 記載順) 【認可時又は届出時】→【令和6年度(新)】→【令和5年度(新)】→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度(旧)】→【令和5年度(旧)】

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・年度途中で担当教員「田中嘉明」から「土屋太祐」に変更の理由により、授業科目「古典に親しむ」の兼任・兼任を「兼1」から「兼2」に変更。

【令和4年度】

- ・授業科目「古典に親しむ」の配当年次を「1前」から「1後」に変更し、兼任・兼任を「兼2」から「兼1」に変更。
- ・種目変更の理由により、授業科目「スポーツⅠ」を「バスケットボール」から「バドミントン」に変更。
- ・種目変更の理由により、授業科目「スポーツⅡ」を「バドミントン」から「バスケットボール」に変更。
- ・担当教員「橋本英樹」の担当授業科目の変更の理由により、授業科目「基礎化学」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・担当教員「島田哲雄」の職名変更の理由により、授業科目「プロジェクト演習Ⅰ」ほか計11科目の専任教員等の配置を「教授1増」及び「准教授1減」に変更。
- ・担当教員「石塚千賀子」の専任教員就任辞退の理由により、授業科目「プロジェクト演習Ⅰ」ほか計10科目の専任教員等の配置を「講師1減」に変更。
- ・担当教員「石塚千賀子」の一部兼任継続の理由により、授業科目「プロジェクト演習Ⅰ」ほか計2科目の兼任・兼任を「兼1増」に変更。
- ・担当教員「國村太亮」の追加の理由により、授業科目「プロジェクト演習Ⅱ」の兼任・兼任を「0」から「兼1」に、授業科目「マーケティング論」の兼任・兼任を「0」から「兼1」に変更。
- ・担当教員「野口祐智」の担当授業科目の変更の理由により、授業科目「プロジェクト演習Ⅳ」の専任教員等の配置を「助教1」から「0」に変更。
- ・年度途中で担当教員「小林義和」から「澁川賢一」に変更の理由により、授業科目「設計製図演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、兼任・兼任を「0」から「兼1」に変更。
- ・年度途中で担当教員「澁川賢一」及び「今井哲哉」の追加の理由により、授業科目「設計製図演習Ⅱ」の兼任・兼任を「0」から「兼2」に変更。
- ・担当教員「小林義和」から「金子健正」に変更の理由により、授業科目「機械要素工学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、兼任・兼任を「0」から「兼1」に変更。
- ・担当教員「島田哲雄」から「野口祐智」に変更の理由により、授業科目「計測工学」の専任教員等の配置を「准教授1」から「助教1」に変更。
- ・申請時の記載間違いの理由により、授業科目「機器分析学基礎」の専任教員等の配置を「助教1」から「准教授1」に変更。

【令和5年度】

- ・授業科目「古典に親しむ」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・担当教員「片桐裕則」の担当授業科目の変更の理由により、授業科目「基礎物理学演習」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・担当教員「若木志郎」の担当授業科目の変更の理由により、授業科目「基礎物理学」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・担当教員「若木志郎」の担当授業科目の変更の理由により、授業科目「基礎物理学」、「水力学」及び「流体力学」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・担当教員「橋本英樹」の担当授業科目の変更の理由により、授業科目「基礎化学」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・担当教員「謝凱雯」の辞任の理由により、授業科目「プロジェクト演習Ⅰ」ほか計10科目の専任教員等の配置を「准教授1減」に変更。
- ・担当教員「石塚千賀子」の兼任継続辞退の理由により、授業科目「プロジェクト演習Ⅲ」の兼任・兼任を「兼1」から「0」に変更。
- ・担当教員「小林義和」の未就任の理由により、授業科目「設計製図演習Ⅰ」ほか計3科目の専任教員等の配置を「教授1減」に変更。
- ・担当教員「吉儀泰章」の追加の理由により、授業科目「設計製図演習Ⅱ」の兼任・兼任を「兼2」から「兼3」に、授業科目「加工シミュレーション」の兼任・兼任を「0」から「兼1」に変更。
- ・担当教員「高橋史明」の担当授業科目の変更の理由により、授業科目「機械工作実習」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・担当教員「坂口卓弥」の追加の理由により、授業科目「医療機器工学」の兼任・兼任を「0」から「兼1」に変更。
- ・担当教員「渡貫正治」の追加の理由により、授業科目「経営学基礎」の兼任・兼任を「0」から「兼1」に変更。
- ・担当教員「渡辺芳久」の追加の理由により、授業科目「経営組織論」の兼任・兼任を「0」から「兼1」に変更。
- ・授業科目「ロジスティクス論」を追加。

【令和6年度】

- ・担当教員「伴浩美」の辞任により、授業科目「基礎英語」ほか計6科目の専任教員等の配置を「教授1減」、「教授0」に変更。
- ・担当教員「Stuart Levine」の追加により、授業科目「基礎英語」「英語Ⅱ」「専門英語Ⅰ、Ⅱ」の兼任・兼任を「0」から「兼1」に変更。
- ・担当教員「Stuart Levine」の追加により、授業科目「英語Ⅳ」の兼任・兼任を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・担当教員「Kevin M O'Neill」の追加により、授業科目「英語Ⅰ」の兼任・兼任を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・担当教員「山本謙一郎」の担当科目の変更の理由により、授業科目「基礎数学演習」の兼任・兼任を「兼2」から「兼1」に変更。
- ・担当教員「高橋史明」の辞任により、授業科目「解析学Ⅰ」専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・担当教員「高橋史明」の辞任及び「星野実」の採用、「今泉充」を授業担当に追加、授業科目「基礎科学実験」専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・担当教員「今泉充」を授業担当に追加、授業科目「燕三条リテラシ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・担当教員「島田哲雄」の担当変更の理由により、授業科目「プロジェクト演習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・担当教員「島田哲雄」「田辺郁男」「野口祐智」の担当変更の理由により、授業科目「プロジェクト演習Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授3」「助教1」から「助教0」に変更。担当教員「深谷由紀貞」の追加により、兼任・兼任を「兼0」から「兼1」に変更。
- ・担当教員「島田哲雄」「田辺郁男」「橋本英樹」の担当変更の理由により、授業科目「プロジェクト演習Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授2」「准教授1」から「准教授0」に変更。担当教員「深谷由紀貞」の追加により、兼任・兼任を「兼0」から「兼1」に変更。
- ・担当教員「高橋史明」「伴浩美」の辞任及び「星野実」の採用、授業担当に追加、授業科目「産学連携実習Ⅰ、Ⅱ」を「教授2減、1増」、「教授15」に変更。
- ・担当教員「高橋史明」「伴浩美」の辞任により、授業科目「卒業研究Ⅰ、Ⅱ」専任教員等の配置を「教授2減」、「教授14」に変更。
- ・担当教員「高橋史明」の辞任により、授業科目「工業数学Ⅰ、Ⅱ」専任教員等の配置を「教授1減」、「教授0」に変更。担当教員「会田英生」の追加により、兼任・兼任を「0」から「兼1」に変更。
- ・担当教員「今井哲哉」「吉儀泰章」の追加により、「設計製図演習Ⅰ」の兼任・兼任を「兼1」から「兼3」に変更。
- ・担当教員「星野実」を採用、授業担当に追加により、授業科目「設計製図演習Ⅰ、Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・担当教員「高橋史明」の辞任、「星野実」を採用、授業担当に追加により、授業科目「機械工作実習」を「教授1減、1増」、「教授2」に変更。
- ・担当教員「高橋史明」の辞任、「今泉充」の担当者の変更、「星野実」を採用、授業担当に追加の理由により、授業科目「工学実験」を「教授2減、1増」、「教授8」に変更。
- ・担当教員「春川英広」の授業担当の追加により、授業科目「アソビ・レザ・シブ」の兼任・兼任を「0」から「兼1」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
41 科目	67 科目	0 科目	108 科目	41 科目 [-]	68 科目 [1]	0 科目 [-]	109 科目 [1]	選択「ロジスティクス論」追加のため(5)、(6)

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>該当なし</p>

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{108} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※隣接する医療系専門 学校の校地等面積を 除く。			
	校 舎 敷 地	6,897.82㎡	㎡	㎡	6,897.82㎡				
	運動場用地	748.25㎡	㎡	㎡	748.25㎡				
	小 計	7,646.07㎡	㎡	㎡	7,646.07㎡				
	そ の 他	8,660.47㎡	㎡	㎡	8,660.47㎡				
	合 計	16,306.54㎡	㎡	㎡	16,306.54㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※隣接する医療系専門 学校の校地等面積を 除く。				
	15,254.49㎡ (15,254.49㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	15,254.49㎡ (15,254.49㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	13室	25室	6室	2室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	工学部 技術・経営工学科			25 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点		
	工学部 技術・経営工学科	6,311 [316] —5,717 [316]— —5,275 [316]— —5,214 [316]— (6,311 [316]) (—5,697 [296]) (—5,253 [294]) (—4,570 [243]) (—4,000 [250])	96 [45] (49 [18]) (—48 [17]) (—0 [0]) (—40 [13])	44 [40] (15 [15]) (—14 [14]) (—0 [0]) (—12 [9])	51 (44) (42) (41)	790 761 452 322 (785) (—759—) (—446—) (—300—)	0 (0)		
	計	6,311 [316] —5,717 [316]— —5,275 [316]— —5,214 [316]— (6,311 [316]) (—5,697 [296]) (—5,253 [294]) (—4,570 [243]) (—4,000 [250])	96 [45] (49 [18]) (—48 [17]) (—0 [0]) (—40 [13])	44 [40] (15 [15]) (—14 [14]) (—0 [0]) (—12 [9])	51 (44) (42) (41)	790 761 452 322 (785) (—759—) (—446—) (—300—)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	296㎡		50席		40,500冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	1,188.85㎡		該当なし						
(8) 経費の見積り及び 維持方法の概要	経費 の見 積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費 (運用コスト含む)を含む。
		教員 1 人当り 研究費等	500千円	500千円	図書購入費	25,000千円	4,000千円	7,500千円	
	学生 1 人当り 納付金	共 同 研 究 費 等	400千円	800千円	設備購入費	300,000千円	310,000千円	5,000千円	①地域内、②地域外 実習料変更のため (3)
		第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		①737 727千円 ②878 868千円	596 586千円	596 586千円	596 586千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		大学運営費交付金、雑収入 等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称										収容定員充足率 0.7倍以下の 学科数	2	収容定員充足率 1.15倍以上 の学科数	2
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC調整 の学科の み)	開設 年度	所在地	備 考		
工学部	年	人	年次 人	人	-	倍	倍	年度	年度				
技術・経営工学科	4	80	0	320	学士 (工学)	1.04	-	-	令和3	新潟県三条市 上須項5002番地5			
大学全体	4	80	-	320	-	1.04	-	-	令和3	新潟県三条市 上須項5002番地5			

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- 記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
 - 学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - 本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - 「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和7年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - 「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 - 「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 - 「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

＜工学部 技術・経営工学科＞

（１）－① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別		氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	
職名		担当授業科目名	職名		職名		職名		職名		
専	准教授 (甲種)	シマダ ケイタ 島田 哲雄 ＜令和3年4月＞ 博士（工学） ア'D'の外演習Ⅰ ア'D'の外演習Ⅱ ア'D'の外演習Ⅲ ア'D'の外演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ ア'D'の5シ'g 演習基礎 工学実験 計測工学 医療機器工学	専	准教授 (甲種)	シマダ ケイタ 島田 哲雄 ＜令和3年4月＞ 博士（工学） ア'D'の外演習Ⅰ ア'D'の外演習Ⅱ ア'D'の外演習Ⅲ ア'D'の外演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ ア'D'の5シ'g 演習基礎 工学実験 計測工学 医療機器工学	専	准教授 (甲種)	シマダ ケイタ 島田 哲雄 ＜令和3年4月＞ 博士（工学） ア'D'の外演習Ⅰ ア'D'の外演習Ⅱ ア'D'の外演習Ⅲ ア'D'の外演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ ア'D'の5シ'g 演習基礎 工学実験 計測工学 医療機器工学	専	准教授 (甲種)	シマダ ケイタ 島田 哲雄 ＜令和3年4月＞ 博士（工学） ア'D'の外演習Ⅰ ア'D'の外演習Ⅱ ア'D'の外演習Ⅲ ア'D'の外演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ ア'D'の5シ'g 演習基礎 工学実験 計測工学 医療機器工学
専	教授	イ コシキ 李 健泳 ＜令和4年4月＞ 学術博士 ア'D'の外演習Ⅲ ア'D'の外演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 企業会計	専	教授	イ コシキ 李 健泳 ＜令和4年4月＞ 学術博士 ア'D'の外演習Ⅲ ア'D'の外演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 企業会計	専	教授	イ コシキ 李 健泳 ＜令和4年4月＞ 学術博士 ア'D'の外演習Ⅲ ア'D'の外演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 企業会計	専	教授	イ コシキ 李 健泳 ＜令和4年4月＞ 学術博士 ア'D'の外演習Ⅲ ア'D'の外演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 企業会計
専	教授	カネコ サトル 金子 寛 ＜令和3年4月＞ 工学博士 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 力学 力学・電気工学演習※ 水力学 機械力学 工学実験 流体力学 ト5イ'k'のD'－概論	専	教授	カネコ サトル 金子 寛 ＜令和3年4月＞ 工学博士 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 力学 力学・電気工学演習※ 水力学 機械力学 工学実験 流体力学 ト5イ'k'のD'－概論	専	教授	カネコ サトル 金子 寛 ＜令和3年4月＞ 工学博士 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 力学 力学・電気工学演習※ 水力学 機械力学 工学実験 流体力学 ト5イ'k'のD'－概論	専	教授	カネコ サトル 金子 寛 ＜令和3年4月＞ 工学博士 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 力学 力学・電気工学演習※ 水力学 機械力学 工学実験 流体力学 ト5イ'k'のD'－概論
専	教授	カネコ サトル 片桐 裕則 ＜令和3年4月＞ 博士（工学） I&EⅠ-の科学 基礎物理学 基礎科学実験 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 力学・電気工学演習※ 電気工学 電気磁気学	専	教授	カネコ サトル 片桐 裕則 ＜令和3年4月＞ 博士（工学） I&EⅠ-の科学 基礎物理学 基礎科学実験 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 力学・電気工学演習※ 電気工学 電気磁気学	専	教授	カネコ サトル 片桐 裕則 ＜令和3年4月＞ 博士（工学） I&EⅠ-の科学 基礎物理学 基礎科学実験 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 力学・電気工学演習※ 電気工学 電気磁気学	専	教授	カネコ サトル 片桐 裕則 ＜令和3年4月＞ 博士（工学） I&EⅠ-の科学 基礎物理学 基礎科学実験 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 力学・電気工学演習※ 電気工学 電気磁気学
専	教授	カネコ サトル 田辺 郁男 ＜令和4年4月＞ 工学博士 黒三糸野々々 ア'D'の外演習Ⅲ ア'D'の外演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 工学実験 特殊加工法 CAE工学 生産管理論 品質管理論	専	教授	カネコ サトル 田辺 郁男 ＜令和4年4月＞ 工学博士 黒三糸野々々 ア'D'の外演習Ⅲ ア'D'の外演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 工学実験 特殊加工法 CAE工学 生産管理論 品質管理論	専	教授	カネコ サトル 田辺 郁男 ＜令和4年4月＞ 工学博士 黒三糸野々々 ア'D'の外演習Ⅲ ア'D'の外演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 工学実験 特殊加工法 CAE工学 生産管理論 品質管理論	専	教授	カネコ サトル 田辺 郁男 ＜令和4年4月＞ 工学博士 黒三糸野々々 ア'D'の外演習Ⅲ ア'D'の外演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 工学実験 特殊加工法 CAE工学 生産管理論 品質管理論
兼任	講師	カネコ サトル 田辺 郁男 ＜令和3年4月＞ 工学博士 黒三糸野々々	兼任	講師	カネコ サトル 田辺 郁男 ＜令和3年4月＞ 工学博士 黒三糸野々々	兼任	講師	カネコ サトル 田辺 郁男 ＜令和3年4月＞ 工学博士 黒三糸野々々	兼任	講師	カネコ サトル 田辺 郁男 ＜令和3年4月＞ 工学博士 黒三糸野々々

22

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	ハシ ユミ 伴 浩美 <令和3年4月> 博士(学術)	専	教授	ハシ ユミ 伴 浩美 <令和3年4月> 博士(学術)	専	教授	ハシ ユミ 伴 浩美 <令和3年4月> 博士(学術)	専	教授	ハシ ユミ 伴 浩美 <令和3年4月> 博士(学術)	専	教授	
		基礎英語 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅳ 専門英語Ⅰ 専門英語Ⅱ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ			基礎英語 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅳ 専門英語Ⅰ 専門英語Ⅱ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ			基礎英語 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅳ 専門英語Ⅰ 専門英語Ⅱ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ			基礎英語 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅳ 専門英語Ⅰ 専門英語Ⅱ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ			
専	教授	川崎 一正 <令和3年4月> 博士(工学)	専	教授	川崎 一正 <令和3年4月> 博士(工学)	専	教授	川崎 一正 <令和3年4月> 博士(工学)	専	教授	川崎 一正 <令和3年4月> 博士(工学)	専	教授	川崎 一正 <令和3年4月> 博士(工学)
		産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 材料工学概論 加工学概論 材料力学 材料工学 機械工作実習			産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 材料工学概論 加工学概論 材料力学 材料工学 機械工作実習			産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 材料工学概論 加工学概論 材料力学 材料工学 機械工作実習			産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 材料工学概論 加工学概論 材料力学 材料工学 機械工作実習			産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 材料工学概論 加工学概論 材料力学 材料工学 機械工作実習
専	教授	小林 義和 <令和5年4月> 博士(工学)	専	教授	小林 義和 <令和5年4月> 博士(工学)	専	教授	小林 義和 <令和5年4月> 博士(工学)	専	教授		専	教授	
		産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 設計製図演習Ⅰ 設計製図演習Ⅱ 工学実験 機械要素工学 加工シミュレーション			産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 設計製図演習Ⅰ 設計製図演習Ⅱ 工学実験 機械要素工学 加工シミュレーション			産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 設計製図演習Ⅰ 設計製図演習Ⅱ 工学実験 機械要素工学 加工シミュレーション						
兼任	講師	小林 義和 <令和3年4月> 博士(工学)	兼任	講師	小林 義和 <令和3年4月> 博士(工学)	兼任	講師	小林 義和 <令和3年4月> 博士(工学)	兼任	講師		兼任	講師	
		設計製図演習Ⅰ 設計製図演習Ⅱ 機械要素工学			設計製図演習Ⅰ 設計製図演習Ⅱ 機械要素工学			設計製図演習Ⅰ 設計製図演習Ⅱ 機械要素工学						
専	教授	加藤 綾子 <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	加藤 綾子 <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	加藤 綾子 <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	加藤 綾子 <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	加藤 綾子 <令和4年4月> 博士(工学)
		技術者倫理※ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 工学実験 電子工学 AI応用演習 実用AI応用演習 機械学習技術論			技術者倫理※ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 工学実験 電子工学 AI応用演習 実用AI応用演習 機械学習技術論			技術者倫理※ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 工学実験 電子工学 AI応用演習 実用AI応用演習 機械学習技術論			技術者倫理※ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 工学実験 電子工学 AI応用演習 実用AI応用演習 機械学習技術論			技術者倫理※ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 工学実験 電子工学 AI応用演習 実用AI応用演習 機械学習技術論
専	准教授	橋本 英樹 <令和3年4月> 博士(工学)	専	准教授	橋本 英樹 <令和3年4月> 博士(工学)	専	准教授	橋本 英樹 <令和3年4月> 博士(工学)	専	准教授	橋本 英樹 <令和3年4月> 博士(工学)	専	准教授	橋本 英樹 <令和3年4月> 博士(工学)
		基礎無機化学 基礎科学実験 AI応用演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 工学実験 複合材料工学			基礎無機化学 基礎科学実験 AI応用演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 工学実験 複合材料工学			基礎無機化学 基礎科学実験 AI応用演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 工学実験 複合材料工学			基礎無機化学 基礎科学実験 AI応用演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 工学実験 複合材料工学			基礎無機化学 基礎科学実験 AI応用演習Ⅳ 産学連携実習Ⅰ 産学連携実習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 工学実験 複合材料工学

24

25

[illegible]

(注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(没年度)については、各年度末時点の情報を記入してください。

① 報告対象年度は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

② 各課の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引」の「教員名簿」を参照してください。

③ 「届出資料に届出方法」は設置審認可時又は届出時の教員名(兼任、兼担教員を含む。)を黒字で入力してください。

その上で、各年度については、**届出時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の文字としてください。**

④ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。

⑤ 専任(専門職大学等専任、専攻、実(研)、実(実)、兼担、兼任の順)に入記してください。

⑥ 上段年度(令和5年度開設であれば令和4年度)の表は適宜削除してください。

⑦ 指定校科目を新設し、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の位置に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入すると、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入して下さい。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・担当教員変更の理由により、年度途中で授業科目「古典に親しむ」の担当教員を「田中嘉明」から「土屋太祐」に変更。

【令和4年度】

- ・担当教員「島田哲雄」の職名を「准教授」から「教授」に変更。（令和3年12月教員審査済）
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「計測工学」の担当教員を「島田哲雄」から「野口祐智」に変更。（令和3年12月教員審査済）
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「フロンティア演習Ⅳ」の担当教員から「李健泳」及び「野口祐智」を削除。
- ・担当教員「田辺郁男」の専任教員就任の理由により、兼任を削除。
- ・担当教員変更の理由により、年度途中で授業科目「設計製図演習Ⅰ」の担当教員を「小林義和」から「澁川賢一」に変更。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「設計製図演習Ⅱ」の担当教員を「小林義和」から「澁川賢一」及び「今井哲哉」に変更。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「機械要素工学」の担当教員を「小林義和」から「金子健正」に変更。
- ・担当教員追加の理由により、授業科目「基礎化学」の担当教員に「橋本英樹」を追加。（令和3年12月教員審査済）
- ・担当教員「石塚千賀子」の専任教員就任の理由により、専任を削除。
- ・担当教員「石塚千賀子」の一部兼任継続の理由により、授業科目「フロンティア演習Ⅲ」を追加。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「フロンティア演習Ⅱ」の担当教員の一部を「石塚千賀子」から「國村太亮」に変更。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「マーケティング論」の担当教員を「石塚千賀子」から「國村太亮」に変更。
- ・種目変更の理由により、担当教員「山田洋司」の授業科目「ｽﾎｰﾂⅠ」を「ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ」から「ﾊﾞﾄﾐﾝﾄﾝ」に変更。
- ・種目変更の理由により、担当教員「山田洋司」の授業科目「ｽﾎｰﾂⅡ」を「ﾊﾞﾄﾐﾝﾄﾝ」から「ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ」に変更。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「心理学」の担当教員を「猪俣萌子」から「成田恭代」に変更。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「フラスカ産業技術論」の担当教員を「川崎雄輔」から「森園賢一」に変更。

【令和5年度】

- ・担当教員追加の理由により、授業科目「基礎物理学演習」の担当教員に「片桐裕則」を追加。（令和4年12月教員審査済）
- ・担当教員追加の理由により、授業科目「機械工作実習」の担当教員に「高橋史明」を追加。（令和4年12月教員審査済）
- ・担当教員「小林義和」の専任教員未就任の理由により、専任を削除。
- ・担当教員（専任教員）「今泉充」を追加。（令和4年12月教員審査済）
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「基礎化学」の担当教員から「橋本英樹」を削除。
- ・担当教員「謝凱雯」の辞任の理由により、専任を削除。
- ・担当教員追加の理由により、授業科目「工学実験」の担当教員に「江面篤志」を追加。（令和4年12月教員審査済）
- ・担当教員追加の理由により、授業科目「基礎物理学」の担当教員に「若木志郎」を追加。（令和4年12月教員審査済）
- ・担当教員追加の理由により、授業科目「水力学」の担当教員に「若木志郎」を追加。（令和4年12月教員審査済）
- ・担当教員追加の理由により、授業科目「流体力学」の担当教員に「若木志郎」を追加。（令和4年12月教員審査済）
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「加工シミュレーション」の担当教員を「小林義和」から「吉儀泰章」に変更。
- ・担当教員追加の理由により、授業科目「設計製図演習Ⅱ」の担当教員に「吉儀泰章」を追加。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「人的資源管理論」の担当教員を「岸保行」から「丸山峻」に変更。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「イノベーションシステム論」の担当教員を「岸保行」から「佐々木淑貴」に変更。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「経営学基礎」の担当教員を「謝凱雯」から「渡貫正治」に変更。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「経営組織論」の担当教員を「謝凱雯」から「渡辺芳久」に変更。
- ・担当教員追加の理由により、授業科目「医療機器工学」の担当教員に「坂口卓弥」を追加。
- ・授業科目追加の理由により、授業科目「ロジスティクス論」の担当教員に「横木剛」を追加。

【令和6年度】

- ・担当教員変更の理由により、授業科目「エンジニアの科学」の担当教員を「片桐裕則」から「今泉充」に変更。（令和5年11月教員審査済）
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「基礎物理学、基礎物理学演習」の担当教員を「片桐 裕則」から「今泉充」に変更。（令和5年11月教員審査済）
- ・担当教員追加の理由により、授業科目「基礎科学実験」の担当教員に「今泉充」を追加。（令和5年2月教員審査済）
- ・担当教員追加の理由により、授業科目「燕三条リサーチ」の担当教員に「今泉充」を追加。（令和5年2月教員審査済）
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「フロンティア演習Ⅱ」の担当教員から「島田哲雄」を削除。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「フロンティア演習Ⅲ」の担当教員から「島田哲雄」及び「田辺郁男」を削除。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「フロンティア演習Ⅳ」の担当教員から「島田哲雄」及び「田辺郁男」、「橋本英樹」を削除。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「力学、力学・電気工学演習」の担当教員を「金子寛」から「永澤茂」に変更。（令和5年5月教員審査済）
- ・担当教員「高橋 史明」及び「伴浩美」の辞任の理由により専任を削除。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「工学実験」の担当教員から「今泉充」を削除。
- ・担当教員（専任教員）「星野実」を追加。（令和5年11月教員審査済）
- ・担当教員（専任教員）「田代昌彦」を追加。（令和6年5月教員審査中）
- ・担当教員追加の理由により、授業科目「設計製図演習Ⅰ」の担当教員に「吉儀泰章」を追加。
- ・担当教員「高橋史明」辞任の理由により、授業科目「工業数学Ⅰ、Ⅱ」の担当教員を「会田英生」に変更。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「基礎科学演習」の担当教員から「山本謙一郎」を削除。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「人的資源管理論」の担当教員を「丸山峻」から「岸保行」に変更。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「心理学」の担当教員を「成田恭代」から「神田誠子」に変更。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「フラスカ産業技術論」の担当教員を「森園賢一」から「萩根沢隆雄」に変更。
- ・担当教員追加の理由により、授業科目「設計製図演習Ⅰ」の担当教員に「今井哲哉」を追加。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「イノベーションシステム論」の担当教員を「佐々木淑貴」から「春川英広」に変更。
- ・担当教員変更の理由により、授業科目「フロンティア演習Ⅲ」の担当教員を「謝凱雯」から「春川英広」に変更。
- ・担当教員追加の理由により、授業科目「フロンティア演習Ⅲ、Ⅳ」の担当教員に「深谷由紀貞」を追加。
- ・担当教員「伴浩美」の辞任の理由により、授業科目「英語Ⅰ」の担当教員を「Kevin M O'Neill」に変更。
- ・担当教員「伴浩美」の辞任の理由により、授業科目「基礎英語、英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、専門英語Ⅰ、Ⅱ」の担当教員を「Stuart Levine」に変更。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**原則としてＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

- (注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
21	11
名	名

- (注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
- ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
15	5	1	2	23	0	15	3	1	2	21	0
(7)	(4)	(0)	(1)	(12)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
15	3	1	2	21	0	18	4	1	2	25	0
[0]	[Δ2]	[0]	[0]	[Δ2]	[0]	[3]	[Δ1]	[0]	[0]	[2]	[0]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
- ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
- ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 （B））の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	6	6
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{21}{23} = \boxed{91.3} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{6}{21} = \boxed{28.57} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	講師	石塚 千賀子	R4.3	必修	プロジェクト演習Ⅰ	①	R4.3 家庭の事情のため就任辞退（4）						
				必修	プロジェクト演習Ⅱ	①							
				必修	プロジェクト演習Ⅲ	①							
				必修	プロジェクト演習Ⅳ	①							
				必修	産学連携実習Ⅰ	①							
				必修	産学連携実習Ⅱ	①							
				必修	商品企画プロジェクト演習	①							
				必修	卒業研究Ⅰ	①							
				必修	卒業研究Ⅱ	①							
	選択	マーケティング論	②										
2	教授	小林 義和	R5.3	必修	産学連携実習Ⅰ	①	R5.3 大学の方針と合わないため未就任（5）						
				必修	産学連携実習Ⅱ	①							
				必修	卒業研究Ⅰ	①							
				必修	卒業研究Ⅱ	①							
				必修	設計製図演習Ⅰ	②							
				必修	設計製図演習Ⅱ	②							
				必修	工学実験	①							
				選択	機械要素工学	②							
	選択	加工シミュレーション	②										
合計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
2	人	必修	12	科目	必修	10	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	0	科目	選択	3	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	15	科目	計	10	科目	計	5	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	准教授	謝 凱雯	R5.3	必修	ﾌﾞﾛｼﾞｪｸﾄ演習Ⅰ	①	R5.3.31 自己都合により辞任 (5)						
				必修	ﾌﾞﾛｼﾞｪｸﾄ演習Ⅱ	①							
				必修	ﾌﾞﾛｼﾞｪｸﾄ演習Ⅲ	①							
				必修	産学連携実習Ⅰ	①							
				必修	産学連携実習Ⅱ	①							
				必修	卒業研究Ⅰ	①							
				必修	卒業研究Ⅱ	①							
				必修	経営学基礎	②							
				選択	経営組織論	②							
				選択	ﾌｧﾝﾄﾚﾌﾟﾚｰｼｯﾌﾟ	③							
2	教授	高橋 史明	R6.3	必修	解析学Ⅰ	②	R6.3.31 自己都合により辞任 (6)						
				必修	基礎科学実験	①							
				必修	産学連携実習Ⅰ	①							
				必修	産学連携実習Ⅱ	①							
				必修	卒業研究Ⅰ	①							
				必修	卒業研究Ⅱ	①							
				選択	工業数学Ⅰ	②							
				選択	工業数学Ⅱ	②							
				必修	工学実験	①							
				必修	機械工作実習	①							
3	教授	伴 浩美	R6.3	選択	基礎英語	②	R6.3.31 自己都合により辞任 (6)						
				必修	英語Ⅰ	②							
				必修	英語Ⅱ	②							
				必修	英語Ⅳ	②							
				選択	専門英語Ⅰ	②							
				選択	専門英語Ⅱ	②							
				必修	産学連携実習Ⅰ	①							
				必修	産学連携実習Ⅱ	①							
				必修	卒業研究Ⅰ	①							
				必修	卒業研究Ⅱ	①							
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)							
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
3	人	必修	15	科目	必修	10	科目	必修	5	科目	必修	0	科目
		選択	7	科目	選択	0	科目	選択	6	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	22	科目	計	10	科目	計	11	科目	計	1	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
5	人	必修	21 科目	必修	14 科目	必修	7 科目	必修	0 科目		
		選択	10 科目	選択	0 科目	選択	9 科目	選択	1 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	31 科目	計	14 科目	計	16 科目	計	1 科目		

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{5}{23} = 21.73 \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

2 人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

・ 令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
							該当なし						
合計						後任補充状況の集計							
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- ・ 就任辞退の専任教員については、兼任教員として授業の一部を担当していただいている。
- ・ 就任辞退、未就任及び辞任の専任教員の担当科目については、他の専任教員及び兼任教員が担当することで対応している。
- ・ 変更内容を含め、シラバスについては、学生ポータルサイトから確認できるようにしている。
- ・ 併行して、欠員となっている専任教員の候補者を公募している。（令和4年3月中旬から常時公募中）

(注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和2年)	1. 設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	【認可】 遵守事項 本学の設置の趣旨・目的等を踏まえ設置計画が確実に実行できるよう、学内に各種委員会を設置し、全ての委員会に教員と職員が委員となるよう運営体制を整備した。また、教育水準を一層向上させるに当たり、FD活動を積極的に実施するため、令和3年度から適宜FD・SD推進委員会を開催し、FDの重要性を認識した。(4)(5)(6)	履行済 引き続き、各種委員会を定期的に開催するとともに、FD活動を継続的に実施していく。(4)(5)(6)
認 可 時 (令和2年)	2. 地域連携キャリアセンターは、産学連携実習や共同研究に関する窓口としての役割を担うなど、本学の教育研究上の使命を果たすために重要な位置付けであると考えられることから、以下の点に留意し、その役割を十分に果たせるよう適切に運営すること。 (1) 同センターに係る規程等を整備し、センターに配置される職員の役割、責任体制、指揮命令系統等を明確にすること。 (2) 産学連携実習の担当教員の負担軽減のため、事務職員や技術職員に加え助手・助教を十分に配置し、多岐にわたる業務を円滑に実施できる体制を整えること。 (3) 産学連携実習科目について、開学後も実習水準を確保しつつ継続的に実施できるよう、既存の受入先企業を維持するとともに、新たな受入先企業を開拓するよう努めること。 (4) 産学連携実習の実習先指導者に対して行う指導者研修について、実効性のある内容となるよう、研修効果の評価・検証を行うなど、継続的に研修プログラムの充実に取り組むこと。	(1) 令和3年4月1日付けで三条市立大学地域連携キャリアセンター規則を制定し、同センターに配置される職員の役割、責任体制、指揮命令系統を明確にした。(4)(5)(6) (2) 令和3年4月1日付けで三条市立大学産学連携実習委員会を設置し、産学連携実習の実施に向けて、検討を進めた。(令和3年度は計14回開催) また、開学当初から産学連携実習委員会の委員(事務職員)を増員することにより、担当教員の負担軽減に努めた。(4) 令和4年度は、三条市立大学産学連携実習委員会を計14回開催した。(5) 令和5年度は、三条市立大学産学連携実習委員会を計11回開催した。また、事務職員の新規採用を行い、担当教員の負担軽減に努めた。(6) (3) 令和3年4月1日付けで三条市立大学産学連携実習委員会を設置し、産学連携実習の実施に向けて、検討を進めた。(令和3年度は計14回開催) なお、申請当初は実習先92社の企業であったが、現在121社と協定書を締結している。(4) 令和4年度は、三条市立大学産学連携実習委員会を計14回開催し、実習先も130社を超えた。(5) 令和5年度は、三条市立大学産学連携実習委員会を計11回開催し、実習先も150社を超えた。また、企業訪問等を実施し信頼関係の構築を図った。(6) (4) 令和3年4月1日付けで三条市立大学産学連携実習委員会を設置し、産学連携実習の実施に向けて、検討を進めた。(令和3年度は計14回開催) また、令和3年7月から8月にかけてキックオフミーティングを実施するとともに、個別で実習先を訪問し、研修内容の擦り合わせに努めた。(4) 令和4年度は、三条市立大学産学連携実習委員会を計14回開催した。(5) 令和5年度も三条市立大学産学連携実習委員会を開催し、実習指導者研修会の開催及び実習後企業アンケートを実施した。(6)	履行中 引き続き、産学連携実習の実施に向けて、より具体的な検討を進めるとともに、受入先企業との調整を行っていく。(4)(5)(6) 引き続き、産学連携実習の実施に向けて、既存の受入先企業との調整を行うとともに、新規開拓に努めていく。(4)(5)(6)
			引き続き、産学連携実習の実施に向けて、既存の受入先企業との調整を行うとともに、新規開拓に努めていく。(4)(5)(6)
			引き続き、産学連携実習の実施に向けて、より具体的な検討を進めるとともに、受入先企業との調整を行っていく。(4)(5)(6)
			引き続き、産学連携実習の実施に向けて、既存の受入先企業との調整を行うとともに、新規開拓に努めていく。(4)(5)(6)
			引き続き、産学連携実習の実施に向けて、より具体的な検討を進めるとともに、受入先企業との調整を行っていく。(4)(5)(6)

認 可 時 (令和2年)	3. 履修モデルのうち「マネジメントに重点を置いたモデル」については、養成する人材像である「創造性豊かなテクノロジスト」との関連性が一見して分かりにくいことから、履修指導に際しては、学生に対して丁寧な説明を行うことが望ましい。	【認可】 助言事項	年度当初に新入生を対象に履修ガイダンスを実施し、履修指導に際して、丁寧な説明を行った。 (4) (5) (6)	履行済	引き続き、年度当初に履修ガイダンスを実施し、履修指導に際して、丁寧な説明を行っていく。 (4) (5) (6)
認 可 時 (令和2年)	4. マネジメントに関する教育の質を継続的に担保するため、今後の教員採用に際しては、経営系分野の専門性を持つ教員を補充することが望ましい。	【認可】 助言事項	今後の教員採用時においては、経営系分野の専門性を持つ教員を補充するよう留意することとした。 (4) 常時ホームページで経営系分野の教員公募を行った。(5) JREC-IN Portalへ公募情報を掲載し、幅広く教員公募を行った。 (6) 経営系分野の教員を1名採用した。(6)	履行済	教員の採用を行う際は、経営系分野の専門性を持つ教員候補者を検討していく。(4) (5) 経営系の教員1名の採用を目指す。(6)
認 可 時 (令和2年)	5. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	【認可】 助言事項	令和4年3月30日開催の理事会において、申請時に記載した教員人事計画に基づき、完成年度以降の具体的な教員人事計画を定めた。その計画の中で教員組織の年齢構成の平準化を図るため、若手教員を積極的に採用するよう努めることとした。(4) (5) (6)	履行済	教員の採用を行う際は、教員人事計画に基づき、適切な教員組織を編成していく。(4) (5) (6)
設置計画履行 状況調査時 (令和3年)	該当なし				
設置計画履行 状況調査時 (令和4年)	該当なし				
設置計画履行 状況調査時 (令和5年)	該当なし				

- 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。
その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

＜工学部 技術・経営工学科＞

（１）設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（２）教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

令和3年4月1日の開学と同時に、三条市立大学FD・SD推進委員会を設置した。
委員会は教員と職員で構成し、新たに実務経験豊富な教員を委員長に充てた。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和3年度は計4回、令和4年度は計2回、令和5年度は計2回、三条市立大学FD・SD推進委員会を開催し、各回とも教員を含む委員がほぼ全員出席した。（3年間の出席率平均は93.1%）
令和6年度以降も定期的に開催を予定している。

c 委員会の審議事項等

各年度のFD・SD研修について、新たなテーマについても積極的に検討の上、計画し実施した。

② 実施状況

a 実施内容

令和3年度に全体的に取り組んで実施したFD・SD研修は、次のとおりである。

- （１）ハラスメント防止講習会
- （２）研究倫理eラーニング
- （３）知的ものづくりセミナー
- （４）広報講演会

令和4年度に全体的に取り組んで実施したFD・SD研修は、次のとおりである。

- （１）ハラスメント防止講習会
- （２）研究倫理eラーニング
- （３）知的ものづくりセミナー
- （４）研修報告会

令和5年度に全体的に取り組んで実施したFD・SD研修は、次のとおりである。

- （１）ハラスメント防止講習会
- （２）研究倫理eラーニング
- （３）知的ものづくりセミナー
- （４）研修報告会
- （５）コンプライアンス研修

その他、個々で各種団体の会議・研修等に参加し、教員の資質の維持向上に努めた。

b 実施方法

FD・SD研修は、講習会、eラーニング、セミナー、報告会と様々な方法で実施した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

「a 実施内容」で示したFD・SD研修の開催状況は、次のとおりである。

- （１）ハラスメント防止講習会（令和3年度：教員11名参加、令和4年度：教員17名参加、令和5年度：教員15名参加）
- （２）研究倫理eラーニング（令和3年度：教員12名受講、令和4年度：教員7名受講、令和5年度：教員21名受講）
- （３）知的ものづくりセミナー（令和3年度：教員8名講演、令和4年度：教員10名講演、令和5年度：教員4名講演）
- （４）コンプライアンス研修（令和5年度：教員18名参加）

※ 広報講演会・研修報告会は、教員参加なし

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

三条市立大学FD・SD推進委員会で随時検討していく予定である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

三条市立大学教務委員会で検討し、令和3年度は前期に、令和4年度は前期及び後期に、令和5年度は前期及び後期に学生に対する授業評価アンケートを実施した。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全体の集計結果及び授業ごとの集計結果を各担当教員に開示した。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、広く知識を授け、地域との協創による「ものづくり」の知識及び技術を有する人材を養成し、地域との連携による教育研究を通じて、地域社会と産業の発展及び社会への貢献に寄与することを目的として設置された。

開学初年度である令和3年度は82名、開学2年目の令和4年度は82名、開学3年目の令和5年度は86名の新入生、開学4年目の令和6年度は93名を受け入れ、上記目的に沿った人材養成を進めているところである。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

自己点検・評価報告書がないため、未公表である。

b 公表方法

公表方法については、三条市立大学自己点検・評価委員会で検討中である。

③ 認証評価を受ける計画

(専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。)

・令和9年に評価機関(一般財団法人大学教育質保証・評価センター)の評価を受けるべく、学内で検討中

(注)・設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和6年度)

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表(予定)時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他()]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

三条市立大学FD・SD推進委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、三条市立大学（以下「本学」という。）の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等としてのファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）並びに、大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に必要な知識及び技能を習得させその能力及び資質を向上させる研修等としてのスタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）を実施するため、公立大学法人三条市立大学の組織に関する基本規則第4条に基づき、FD・SD推進委員会（以下「委員会」という。）を設置し、その運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 本学におけるFD・SD研修の実施に関すること。
- (2) 教育研究活動の改善に関すること。
- (3) その他FD・SDの組織的な取組推進に関すること。

(組織)

第3条 委員会の委員は、原則として学長が指名する教職員をもって構成する。

2 必要に応じ、学長が指名する学外有識者を委員とすることができる。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、原則として2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 他の委員の任期の途中で指名された委員の任期満了日は、他の委員の任期満了日と同一の日とする。

(委員会の運営)

第5条 委員会に委員長を置き、学長が指名した教員をもって充てる。

2 委員会は、必要に応じて開催するものとし、委員長が招集し、その議長となる。

3 委員会は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4 委員会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 委員長は、委員以外の者（学外者を含む。）の出席を求めて意見を聴くことができる。

6 委員会に学長の指名による副委員長を置くことができる。

7 委員長に事故があるとき、又は議長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代理する。ただし、副委員長を置いた場合は、副委員長が代理する。

8 委員会の審議の結果は、大学運営会議に報告する。

(専門部会)

第6条 委員会に、第2条各号に掲げる事項を検討させ、及び実施させるため、専門部会を置くことができる。

2 前項の専門部会に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

(事務)

第7条 委員会に関する事務は、Academic Affairs Unit 及び Finance & HR Unit において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年3月28日から施行する。

附 則

この規程は、令和5年6月21日から施行し、令和5年6月1日から適用する。